

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270102132
法人名	有限会社 長建寄り逢い長崎
事業所名	グループホーム坂の上の紫陽花
所在地	長崎県長崎市本河内2丁目14-15 (電話) 095-825-8879
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月 24日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改良型のホームは日当たりもよく家庭の延長上で暮らしているようである。ホームは代表の自宅であったこともあり周辺地域との交流が盛んで、祭りなどのイベントやホームへ多くの見学会がなされている。職員は利用者の「尊厳」を介護目標にし、言葉かけの大切さを十分に理解し介護を実践している。法人代表は夕張のホームとの往復があるがFAXや電話で詳細に連絡を取り合い、ホーム運営を積極的にサポートしている。利用者同士の仲もよく笑顔でお互いの近況を話して楽しんでいた。笑顔の耐えないホームである。

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤6人, 非常勤 人, 常勤換算6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,300~60,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		400 円	

(4) 利用者の概要 (3月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	59 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科医院 岩本歯科 是真会病院
---------	-------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義は全職員理解し前回の改善点は介護面は職員で取り組み、ハード面は法人代表により迅速に改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義は全職員理解されているが、自己評価作成は管理者が作成し話がされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成20年2月に第一回運営推進会議が利用者、家族、施設長、職員、町内会長、地域住民、長崎市すこやか支援課担当者の参加で行われている。ホームの紹介や質問等を行っている。地域の介護相談や独居世態へ声掛け、ホームの徘徊時の補助など話し合われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や電話で、暮らしぶりや行事の写真を毎月報告を行っている。金銭の預かりは基本的にはなく立替時の領収書を確認してもらい請求している。意見箱の設置や家族の訪問時に報告しその内容は報告書が作成されている。意見、要望が記録され管理者、職員で話し合い現場に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設長の生まれ育った場で自宅でもあるホームは地域の交流は深い。地域祭りや老人会の訪問など頻繁に交流している。中学の職場体験や見学者も自由に受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが家の主であり、地域と共に地域の一員として最期までその人らしいあり方を目指す理念を元に、地域密着型を再確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	午後のミーティングの時に必ず理念を読み上げ、理念を確認し「利用者の尊厳」を元に、おのおの介護の目標を立てている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長の生まれ育った場で自宅でもあるホームは地域の交流は深い。地域祭りや老人会の訪問など頻繁に交流している。中学の職場体験や見学者も自由に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義は全職員理解しているが、自己評価作成は管理者が作成している。	○	自己評価を職員全員が記載し介護を再確認する機会の際にしていくことを期待する。

グループホーム 坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年2月に第一回運営推進会議が利用者、家族、施設長、職員、町内会長、地域住民、長崎市すこやか支援課担当者の参加で行われている。地域の介護相談や独居世態へ声掛け、ホームの徘徊時の補助など話し合われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長崎市を通じ認知症の相談や指導、また研修を行っている。介護相談員の受け入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や電話での報告を行っている。報告内容は暮らしぶりや行事の写真を毎月行っている。金銭の預かりは基本的にはなく立替時の領収書を確認してもらい請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の訪問時に報告しその内容は報告書が作成されている。意見、要望が記録され管理者、職員で話し合い現場に反映させている。ホームには表記されているが、重要事項説明書に外部窓口の明記がなかった。	○	重要事項説明書に外部窓口の明記をすることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同敷地内のグループホームとの勤務シフト上の職員異動が多少あるが、日常から顔なじみの状態ができており、利用者の不安がないように配慮している。		

グループホーム 坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修が職員の介護レベルに合わせ出題され、合格するまで行われている。緊急マニュアルはお互いに実演しながらとっさに動けるようトレーニングしている。職員の外部研修の参加にまでは至っていない。	○	職員の更なるレベルアップのためにも、外部研修の参加を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は全国グループホーム協議会に入っている。県内の他のホームからの研修や相談役になっており、常に訪問見学ができる体制ができている。また代表と管理者は積極的に他のホームの見学を行いよい点を取入れる取り組みに努めている。ただし、職員は他のグループホーム職員との交流する機会があまりない。	○	職員が他のグループホーム職員と交流することで、事業所の良い点を再認識したり、他事例を知る機会にもなると考えられる。職員の交流の機会を持つよう期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	長崎市からの紹介などが多く、家族や利用者が安心感を持ってもらうように説明し、入居後は見守りを重点に馴染んでもらえるように職員はミーティングしながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に尊厳をもって言葉がけに注意し、残存能力を活かすように心掛け一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、花の水やりをしてもらったり、干し柿作りを学んだり支えあう関係が作られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は尊厳を持って接することで、利用者との信頼関係を気づくことに努め、思いを把握している。また、家族からの協力も得ながらより詳細に利用者の意向を組み入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が利用者一人ひとりの「できること、できないこと」をシートに記録している。毎日、午前と午後に職員ミーティングで、その記録を確認して、家族の希望や主治医の意見も反映させ介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは常時行っている。特に退院後は身体機能が低下しているため必ず見直している。また、急な変化があった場合はその都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買い物など利用者の容貌に合わせた外出を支援したり、行きつけの美容室、墓参り、お彼岸には自宅へ向かったりしている。		

グループホーム 坂の上の紫陽花


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの往診が毎週訪問されている。また、入所以前からの病院への受診も可能で職員が通院支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けた話し合いは以前からなされている。ホームでは最期までを方針としており、家族にも入所時に説明がなされている。葬儀の実例もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の保護の為、職員への利用者の個人情報取り扱いの誓約書を取っている。外部の訪問者からも利用者のプライバシーの確保に努め個人記録の保管も注意を払っている。常に尊厳を持った言葉かけに注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に生活をしてもらうため利用者のペースや笑顔を最優先に支援をしている。また日々の会話や表情から、その時の意向をくみ上げて対応している。		

グループホーム 坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備とともに、家庭的なリビングの食卓に、自然と世間話をしながら集まってきている。食事は個々の利用者の咀嚼状態に合わせて調理され、食器類も使い易く、職員も同じ食事を一緒にとりながら介助支援を行っている。会話をし楽しい食事の様子が伺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本2日に1回入浴日になっているが、利用者の健康状況や希望を優先しながら対応している。入浴の拒否の場合は職員は声かけを工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、経験を発掘できるような会話から機会を作っている。干し柿作りなどがある。年間を通じて季節毎に行事を行っている。誕生会では料理を作ったり、利用者による歌や踊りの披露がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がいい日は散歩に出かけ気分転換を行っている。歩行困難の方も車椅子を利用し外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵をかけないようにしている。玄関は夜間以外は施錠はしていない。家族も自由に訪問できるように開放的なホームを心掛けている。		

グループホーム 坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対する避難訓練は昼夜想定の実施訓練を利用者も含めて行っている。マニュアルもホーム内に掲示しており、職員も徹底的に教育を受けている。地域との連絡体制もできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個人記録に摂取状況の記録項目があり職員間で日々対応できる体制になっている。食事の咀嚼能力を把握しており個々にあわせた食事を用意し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造したホームは昔からの暖かみがあり落ち着く空間となっている。広縁が居室を囲み、リビングへと通じている。リビングでの食事準備の匂いや、会話の声などの生活感が暖かみを感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も利用者のそれぞれの部屋という感じを受ける。使い慣れた家具や仏壇など持込されている。加湿器や換気扇も各部屋に配置され居心地よい空間を支援している。		

※  は、重点項目。